こおり治療院通信

令和3年11月1日発行
NO.164

我が家の愛猫ミユくん
キリっとして表情ですが、眠いだけですzzz

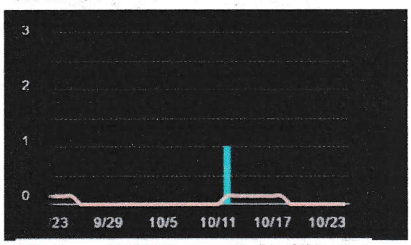
ごあいさつ

皆さん、こんにちは。朝晩の冷え込みが一気に強まり、吾妻山でも初冠雪が記録され、冬の訪れを感じるようになってきました。先月頭まで暑さが続いてましたから余計に寒さを強く感じます。冷えは万病の元。身体が冷えて良いことは何もありません。特に夜は温かくしてお休みくださいねzzz

さて、全国的に新型コロナの新規陽性者数が激減し、徐々にではありますが社会が平穏を取り戻しつつあるように感じています。しかし、一旦脳に恐怖が植え付けられてしまった以上、完全に元の状態に戻ることは不可能です。現に、福島県は10月第3週の1日平均の陽性者数は約1人、第4週は約0.4人と、ほぼゼロに近い状態まで激減していましたが、県知事はこの状況を受けて「下げ止まり」と表現しました。これより下がったらマイナスになりますけど？これで終息でないのならどの状態を終息と言うのでしょうか？ウイルスは決してゼロにはなりません。知事の場合、感染症より責任を負わされることの恐怖が強いため、どれだけ減っても、例えゼロになっても「気を緩めるな！」と言い続けるでしょう。そして、マスコミによってコロナに対する恐怖を植え付けられている県民も、その言葉に何の疑問も感じることなく受け入れます。そのように、恐怖は人間から冷静な判断力を奪い、目の前にある当たり前の現実も理解出来なくなってしまうのです。

現在、福島県のコロナ死者は、県民全体の約0.009%に過ぎません。つまり県民の99.99%以上が亡くなっていないのです。約2年間の累計でもこの数字。しかも、死亡者の平均年齢は80代。国民の平均寿命と変わりません。その上、検査陽性者が死亡した場合死因を問わずコロナ死と報告するよう厚労省から通達が出ているため、本当にコロナが原因で亡くなったのかさえ不明です。以上のことから、少なくとも「死の病」ではないことは明白だと思います。それなのに政府はペストやエボラと同等の「死の病」として扱うよう法整備しています。そのため保健所を介さねば医療も受けられず、医療現場でもまともな医療が行えない、小規模な病院では受け入れも困難な状態です。分類を5類以下にするだけですべて解決するのに。これは政治の責任ですが、国民の多くが「恐怖」を克服しなければ政治家も変わることはないと思います。マスコミに踊らされることなく、現実を見据えて当たり前の生活を取り戻していきましょう。

コロナ患者の傍で看護師は防護服なのに岸田総理はマスクのみ。それでいいなら何故面会はダメなんですか？防護服要ります？



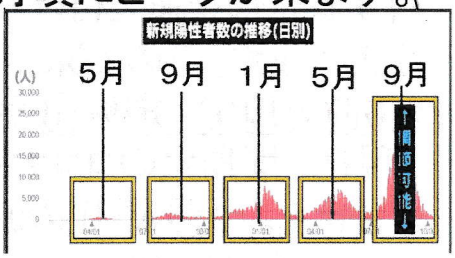
約2ヶ月間の死者数は1人のみ。これが「死の病」かよく考えましょう。

こおり治療院院長　郡　剛志

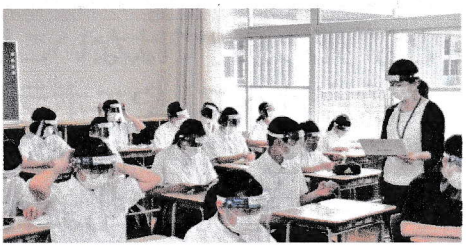
「陽性者激減の理由」

第5波と言われた新型コロナ陽性者の波は9月をピークに大幅に減少しました。その理由について、尾身氏を初めとするテレビでお馴染みの自称専門家らは明確に回答出来ません。彼らは人流を抑制することでしか感染を止められないと主張し続けているため、人流が増えれば増えるほど感染者が減る現状に困惑するしかないようです。中には「マスクのおかげ」と主張する者もいますが、国民のほぼ全員がマスクを着用して生活しているのは今に始まったことではなく、もう1年以上続いています。マスクで感染が抑えられるなら5回も波は来ないでしょう。論外です。最近一番聞く理由は「ワクチン接種が進んだから」ですが、今年の2月から接種が始まりどんどん接種者が増えるほど陽性者も増えていき、接種率が60%を超えた9月に過去最高の陽性者数を記録しています。ワクチンが無かった頃より陽性者が多いということです。デルタ株は接種しても感染する（ブレークスルー感染）ことは周知の事実。シンガポールでは接種率80%を超えても感染拡大が止まらない状態にあり、イスラエルからは接種率90%以上でも集団免疫には至らないという論文が発表されています。今やワクチンで感染を抑制することは不可能というのが世界の常識です。

では何故陽性者が激減しているのか？答えは簡単。感染の拡大収束には一定の周期があるからです。勝手に増えて勝手に減る。それが感染症です。コロナの場合、約120日周期で波のピークが来ます。波の幅は約70日。今年の1月にピークが来て、次が5月、9月、そしてまた来年の1月頃にピークが来ます。これは日本人の免疫の働きによる周期です。季節の変わり目などで免疫力が低下して感染が拡大し、多くの人が感染することで集団免疫が形成され収束する。インフルエンザが毎年流行して収束していたのも同じ理由です。東アジアには土着コロナという土地に根付く無数のコロナウイルスが存在し、私たちは祖先から皆コロナに暴露してきたため、遺伝子に免疫が付きやすいよう刻まれています。コロナのようなRNAウイルスは変異が激しく、免疫があっても感染はしますが交差免疫の作用により重症化が抑えられます。ワクチンにより形成される抗体は特異的なため交差免疫としての作用は期待出来ません。感染・暴露し自然免疫を活性化することで最も効率良く免疫強化が出来ます。デルタ株は感染力が高く弱毒のため今まで以上に多くの人が曝露し免疫を強化出来ました。それが今日の激減の理由です。無駄に人流を抑制すれば免疫を強化する機会を失うことになります。これまで通り外出し楽しく人と交流して免疫を強くしていきましょう。



感染波の周期を示すグラフ
☝波の幅も均等にほぼ同周期で拡大収束しています。ただし波の高さは検査数によって増減します。



免疫力の高い子供たちにこんなバカな恰好をさせる必要はありません！逆に病気になりますよ！

はり・きゅう・マッサージ
こおり治療院
〒960-8003 福島県福島市森合字高野3－8
TEL 024－557－0645 http://hari-kori.com
当院HP
院長ブログ